

平成27年

1月	2月	3月	4月	5月	6月
7月	8月	9月	10月	11月	12月

そのほかの掲載分は [こちら](#) から

3月

3月30日（月）

- 消防庁長官表彰

▶ [詳細はこちら](#)

- アンジェラストーン菊池代表来庁

▶ [詳細はこちら](#)

3月28日（土）

- 金滴酒造日本酒の集い

▶ [詳細はこちら](#)

3月27日（金）

- 砂川市農民協議会第54回定期代議員総会

▶ [詳細はこちら](#)

3月26日（木）

- 第19回村田施設工業（株）公和会定期総会

▶ [詳細はこちら](#)

- 警視菊池砂川警察署長赴任

▶ [詳細はこちら](#)

3月25日（水）

- NPO法人コメリ災害対策センターと災害時における物資供給に関する協定締結

▶ [詳細はこちら](#)

3月24日（火）

- コメリパワー砂川店新築工事繁盛祈願祭

▶ [詳細はこちら](#)

3月22日（日）

- 春のことばあそび 五七五

▶ [詳細はこちら](#)

3月19日（木）

- 石家社長来庁

▶ [詳細はこちら](#)

- JICAボランティア表敬訪問

▶ [詳細はこちら](#)

- 北海道スイコー（株）さんへの立ち寄り

▶ [詳細はこちら](#)

- 砂川の再生人 古頭輝男さん

▶ [詳細はこちら](#)

3月12日（木）

- JR北海道711系車両赤電 一砂川駅ラストラン

▶ [詳細はこちら](#)

3月8日（日）

- 自衛官募集相談員委嘱式・自衛隊入隊予定者激励会

▶ [詳細はこちら](#)

3月3日（火）

- 水人会定期総会・懇親会

▶ [詳細はこちら](#)

3月1日（日）

- 砂川高校第11回卒業式！

▶ [詳細はこちら](#)

3月30日 消防庁長官表彰

田川正人さん（砂川消防団副団長）と島不二彦さん（奈井江消防団副団長）のお二人が消防庁長官表彰と永年勤続功労章を授与され、その報告に来られました。

田川さんは昭和53年に消防団に入団し37年間務めてきましたが、この間5年から6年に一度の割合で火災によって亡くなられる方がいて非常に残念だとおっしゃっていました。

島さんは昭和56年に消防団に入団し34年間務めてきましたが、一番記憶に残っているのは入団してすぐの大洪水で奈井江川がはんらんし夜通しで土のう積みをしたとのことで、たいへんな所に入ったと思ったそうです。

同行した堀団長は、「自分の町は自分で守る」という団の精神は今も失われていなく、新入団員の訓示でいつも話をされています。
今後ともお二人のさらなる活躍を願っています。



島不二彦さん（左端）と田川正人さん（右端）

3月30日 アンジェラストーン菊池代表来庁

菊池さんは3年前から市内の新小学1年生に「楽しく仲良く、交通安全」という標語で交通安全ストラップを寄贈していただいています。
ことしの対象者は119名で男女別になっています。



アンジェラストーン菊池代表（左）



毎年ありがとうございます

これとは別に菊池さんから婚活について自身の経験も踏まえ貴重な話を聞かせていただきました。

菊池さんは「高校を卒業して市内の優良企業に就職しましたが、まだ他に良い所があるのではないかと退職しましたが、それ以上に条件の良い所は無かった。高校出たてで何もわかっていなかった」と話していました。

子どもができたときに“これではいけない”とやる気になったそうで、今の若い人には目標や夢を追う情熱を持つことの大事さを教える教育が必要で、それが無いと女性を引き付けることはできないとのことでした。



3月28日 金滴酒造日本酒の集い

砂川以外の近隣市町村から多くの皆さんが参加して盛会に開催されました。全員に当たる抽選会も好評です。



3月27日 砂川市農民協議会第54回定期代議員総会

住みよい農村社会の実現と農民の社会的、経済的地位の向上をめざす団体です。猪本委員長はじめ役員の皆様ご苦労様です。



3月26日 第19回村田施設工業（株）公和会定期総会

公和会田宮会長はじめ村田施設工業（佐藤勝也社長）と取引業者の皆さんご苦労様です。お互いに連携を取りながら地域の活性化に取り組んでいきましょう。砂川の企業の元気は砂川市の元気につながります。



村田施設工業（株） 佐藤社長



藤井署長の後任として菊池和幸署長が赴任のあいさつに来られました。

前職は道警本部総合企画官（本人いわく何でも屋とのこと）で、4年前は本部長秘書調査官として2年間本部長と同じ敷地内の公宅に住んでいたとのこと。同じ敷地内に知事の公館もありました。

主に刑事部門や管理部門を歩んできたとのこと。

署長として赴任するのは砂川警察署が初めてです。

『菊池署長の目標』

- 1 砂川警察署ホームページのアクセス数を全道NO1にすること。
そのためにもSuBACoの地域おこし協力隊の協力をいただきたい。
- 2 6月28日のアメニティ・タウンすながわマラソン大会に署長以下職員が「たすき」を着けて走る。
- 3 道も主体となって婚活を進めると言っているので、砂川市の進める婚活事業に独身職員が15名以上いるので、多くの職員を参加させる。

まさに『走る署長』で、物腰は柔らかいですが、砂川警察署管内の交通事故撲滅や防犯に先頭に立って走るというすごい気迫を感じました。



菊池砂川警察署長



3月25日 NPO法人コメリ災害対策センターと災害時における物資供給に関する協定締結

NPO法人コメリ災害対策センター（捧雄一郎理事長）さんと災害時における物資供給に関する協定を締結しました。



市長室で行われた協定書調印式

(株)コメリは、平成16年に発生した中越地震で本社や店舗などに被害を受けました。それを契機にNPO法人コメリ災害対策センターを設立し、災害発生時の物資の提供などの活動を広げています。

昨年8月の広島県の豪雨災害時には約85万枚の土のう袋を供給した実績があるなど、非常に経験豊富なNPO法人であり、災害時には作業シート、土のう袋、緊急ミニトイレ等を供給・運搬していただく協定内容となっております。

同NPO法人では全国約600か所、道内ではすでに7か所と協定を結んでおられ、砂川市は8か所目となります。

また、災害用の物流センターが全国10か所にあり、道内では苫小牧にあるそうです。さらに、災害の種類、時間の経過とともにどのような物が必要になるのかのデータを蓄積しており、協定締結にあたり提供いただける予定です。データを活用し、いつ起こるかわからない災害に備えていきたいと思っております。

NPO法人コメリ災害対策センターさん、ありがとうございます。



捧理事長（左）と記念撮影

(株) コメリから山田執行役員他3名と従業員、砂川商工会議所其田会頭、石山団地町内会高村会長、(株) 治田タイヤ治田社長、設計業者・建設業者による繁盛祈願祭に出席してきました。

敷地面積28,035平方メートル、建築面積9,797平方メートルと大きな建物です。





(株) コメリは全国で1,166店舗を展開している日本一のホームセンターで、北海道では砂川で4店舗目となり、苫小牧と同じコメリパワー店（コメリで一番大きな10,000平方メートル規模の店）となります。

コメリパワー砂川店は3月25日（水）朝9時にオープンします。

さる会合のあいさつで地域交流センター「ゆう」に行きましたら、俳句創の会の皆さんが俳句の勉強をしておりました。抹茶とまんじゅうをごちそうになったお礼に写真を撮ってきました。



皆さんご苦労様です

3月19日 石家社長来庁

石家酒店の石家社長が、「倉庫を整理していたら珍しい物が出てきたので」と市長室に珍品を持って来ていただきました。

写真は左からサントリーウイスキー特級EXPO'75海洋博、大阪城築城400年記念1983、PORTOPIA'81のラベルが見えます。



3月19日 JICAボランティア表敬訪問

二階堂進先生（元砂川中学校教諭）が、JICA（国際協力機構）ボランティアとしてヨルダンに派遣されることから、市長室に表敬訪問で来られました。



ヨルダンに派遣される二階堂先生（中央）とJICA北海道松嶋所長（左）

二階堂先生は昨年12月まで砂川中学校で1年生を教えていましたが、合気道5段の腕前で4年前に先輩がアンマン市で合気道を教えていたことからヨルダンオリンピック委員会の要請でその後を継いで100人余りの会員の指導に当たるものです。

2年後には戻ってきますが教えていた1年生が3年生になっているので、総合学習の時間にヨルダンでの経験を教えたいと言っていました。

二階堂先生のご活躍を期待しています。

なお、JICAは今年50周年を迎え、今までに2,300人が海外にボランティアとして派遣されているとのことでした。

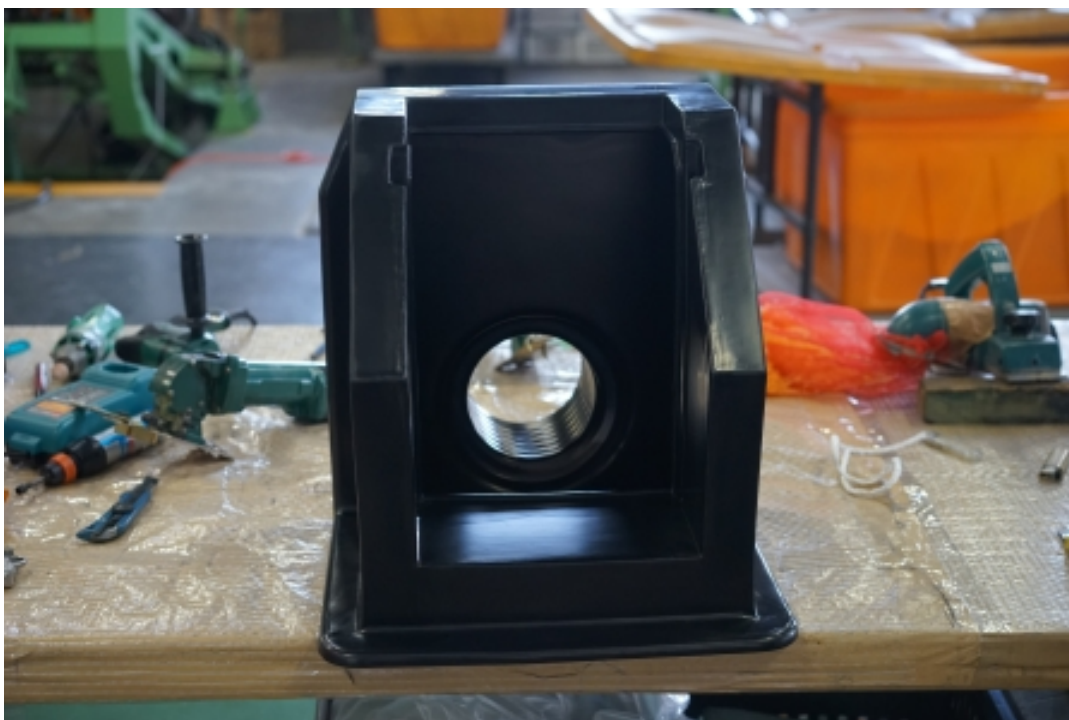


3月19日 北海道スイコー（株）さんへの立ち寄り

古頭さんにお会いした後に、同じ工業団地内にある北海道スイコーさんに寄ってみました。



上の写真は出荷待ちの福島でがれきの除染水を入れるタンク。
下の写真は、田んぼの水位調整をする落水ボックス。3年ほど前から自分で簡単に工事ができることから順調に売り上げが伸びているそうです。





最後はいろいろな鋳型と製品を造っているところ。







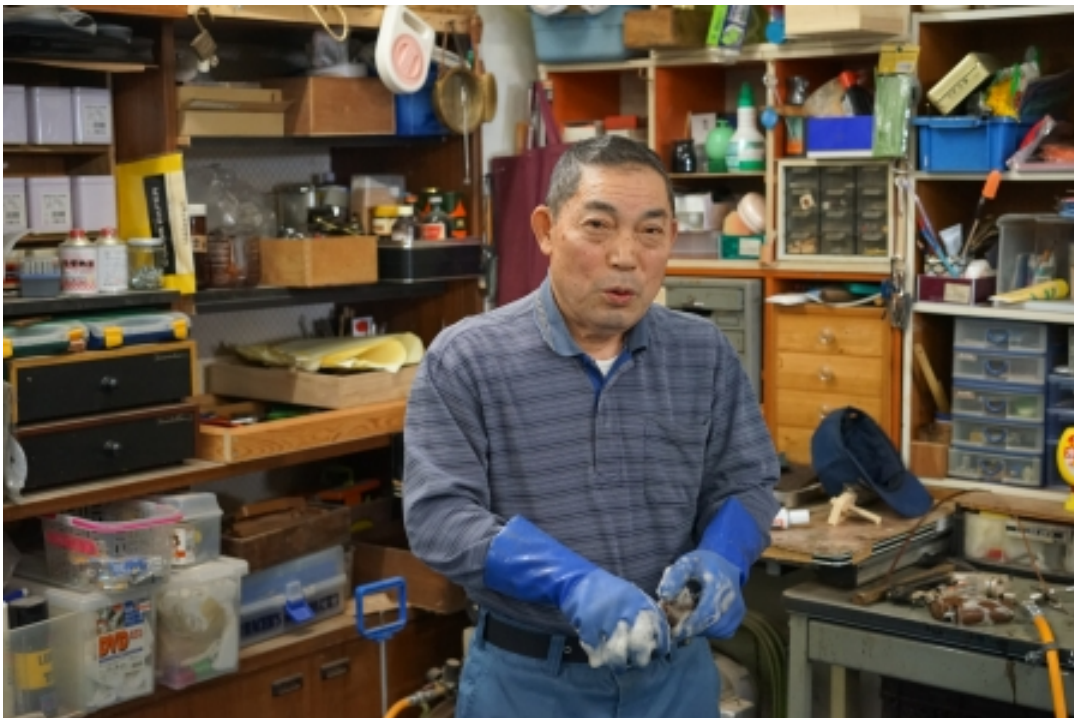
砂川市の優良企業ですが、若い人がなかなか定着しないのが悩みとっておりました。

高校生などに日本経済を支えている「ものづくり」の大事さを啓蒙する機会の必要性を感じます。何らかの方法を検討してみます。

3月19日 砂川の再生人 古頭輝男さん

3月議会も終わり静かな日々が続いています。

今日は「クリーンプラザくるくる」（砂川地区保健衛生組合）で、ボランティアで粗大ごみの修理再生を行っている古頭輝男さんを訪問しました。



古頭輝男さん

古頭輝男（79歳）さんは、昭和11年山形市生まれで山形にて家具職人をしておりましたが、24歳のときに来道し45歳で砂川火力発電所の作業員として砂川に来ました。平成16年からは「クリーンプラザくるくる」で粗大ごみの修理再生のボランティアをしていただいております。家具や日用品等自転車以外の再生を担当しています。



『古頭さんのお話』

人から見れば「ガラクタ」でも自分には「宝物」に見え、うまく直せたときやリサイクル市でたくさん物が売れるときはうれしくなるが、また戻って来ると悲しくなるとおっしゃっていました。戦後の物が無かった時代をたくましく生きてきた世代。 — 物を大事にする精神を教えられます。

戸棚は白っぽいもの、大型なものは人気がなく、アンティークな感じのものは傷があっても売れるそうです。





写真にある明治乳業の看板は今では高値で取り引きされているとかで、たばこや塩の看板もいつの間にか無くなってしまったそうです。

あんかの写真は、古頭さんも子どものころに使ったものと同じもので、中に炭を入れてあんかを中心に置いて家族全員の足が温まるようにして使っていたそうです。私の子ども時代はブリキのあんかにお湯を入れてタオル(?)で包んで使うものでした。



米屋や酒屋で使用された20貫のはかりの使い方を見せていただきました。75kgまで量ることができるそうです

「クリーンプラザくるくる」では年に2回リサイクル品抽選会を開催しています。

古頭さんは週に2~3回でも手伝っていただける人がいると助かると言っており

ました。

最後に、「長年使ってきた物への感謝の気持ちをもっとあっても良いのに」ということばに私たちが失いつつある何かを感じさせられました。

古頭さん11年間たいへんありがとうございます。今後ともよろしく願いたします。

3月12日 JR北海道711系車両赤電 ー砂川駅ラストランー

北海道新聞の記事で、赤電の砂川駅のラストランが夜9時49分の旭川発岩見沢行が最後とのこと。雪の降る中砂川駅へ。

駅には先着のマニア3人（内2人は砂川地域おこし協力隊員）がいて、会話をしながら到着を待つこと10分。

ベストポジションは“旭川行きのホームからが一番”と砂川在住のマニアの方と待っていると遠くの方から赤電のライトが迫ってきました。

ちょうどその時、なんと10分遅れの旭川行きスーパーカムイが3番ホームに。慌てて跨線橋を走り2番ホームへ。

何とか撮れたのがこの3枚の写真。カメラを持った方が大勢乗っていました。



跨線橋の階段から



ふだんよりも人が乗っています



青春の思い出とともに去りゆく赤電

この赤電は1968年に北海道初の電車として導入され、近年は普通電車として通勤通学に使われていたとのことです。

この電車の導入前はディーゼル機関車が主流で、たまにC62と書かれた蒸気機関車も走っていました。

たまたま蒸気機関車に乗り合わせることもあり、窓を開けると白いワイシャツがすすけることもありました。今の人にはわからないか・・・。

午前10時より滝川市において、自衛隊札幌地方協力本部主催の5市4町の自衛官募集相談員委嘱式が行われ、砂川市は今年度も吉川道夫氏と三上宏治氏に委嘱しました。



中空知地区の募集相談員「オアシス会」の会長としてあいさつをする吉川道夫氏

また、11時より平成27年度自衛隊入隊予定者激励会が開催されました。ことはこの地区から18名が入隊し、そのうち10名は砂川市からです。



空知総合振興局山根局長



同じテーブルで一緒になった滝川高校鈴木可南子さん（右から2人目）、4月から埼玉県朝霞駐屯地に赴任します。「心配じゃないですか」とお母さん（一番左）にお聞きしましたら「本人の強い意志ですから」との答え。頑張って3か月研修に耐えてください

砂川高校からも5名が松原校長とともに出席しておりましたが、セレモニーが行われており写真を撮ることができませんでした。

もう少しで4月、高校3年生は皆それぞれの道を歩むために旅立っていきます。高校時代と異なったいろいろなことを経験します。いろいろなことに興味を持って幅を広げ、自分なりの軸をしっかりとつくっていただきたい。

この世の中、正解は一つじゃないということを早くわかることも生きていくうえで必要です。

3月3日 水代会定期総会・懇親会

水島建設工業（株）と取引のある砂川市内外の専門業者や資材納入業者42社で構成されており、円滑な業務遂行と親睦を目的とした会です。

昨年は安全研修会、砂川千人踊り事業、交通安全旗の波運動等の事業を行っています。

水島社長のあいさつで、昨年は工事高は減少したが収益は上がり、身の丈に合った事業をしていかなければならないとっておりました。

一般的には、アベノミクスの円安により収益は減少傾向にあると言われております。国をけん引している自動車・電気等の大企業と異なり地方の中小企業は厳しい情勢の中で頑張っています。



川口繁樹 水和会会長 (中央)



水島建設工業(株) 水島孝嗣社長



3月1日 砂川高校第11回卒業式



市長になり初めての出席で祝辞を述べました。

卒業生は109名。

子どもたちの卒業式も仕事で出席することができず、自分以外では初めての卒業

式出席でした。



松原校長式辞要旨

「自分一人では生きていけない……。積極的に社会に参加してほしい。皆さんは失われた20年の中で生まれた。日本の伝統を大事にしてほしい。この3年間の経験を大事にして新しい日本を創っていただきたい」



式辞を述べる松原校長

谷岡卓磨君（生徒会長）送辞要旨

「くじけそうなときは、この砂川高校の3年間を思い出してほしい。この砂川高校での3年間で無駄なものは何一つないはずです……。」



生徒会長谷岡卓磨君の送辞

沼口洋太君答辞要旨

「3年前の春、この場所で入学式を迎え新しい仲間が増えた……。信頼できる先生たちと出会えた。3年生になると何をやるにも“最後の”ということばが出た。この3年間は仲間との大切な思い出です。3年生になると進路問題で自分との戦いであった……。

わたしたちには砂川高校の3年間の思い出がある。仲間との信頼、先生のことばを信じること。皆の思いは違うけど砂高生として恥ずかしくない人生を歩んでいきたい。高校3年間は短い。家族、先生がかかわってくれたすべての皆様に感謝です。」



答辞を述べた沼口洋太君

年のせいか卒業生を見ていると自分の卒業時を思い出し涙が出そうになった。感動の一日でした。卒業生の前途には苦難の道もありますが、くじけず、焦らず、時には回り道をしてでも一步一步前に進み自分の人生を大事にして雑草のごとく生きてほしい。



